

浜岡原子力発電所 3号機 原子炉建屋 地下 1階における 水の漏えいについて(続報)

2019年2月12日

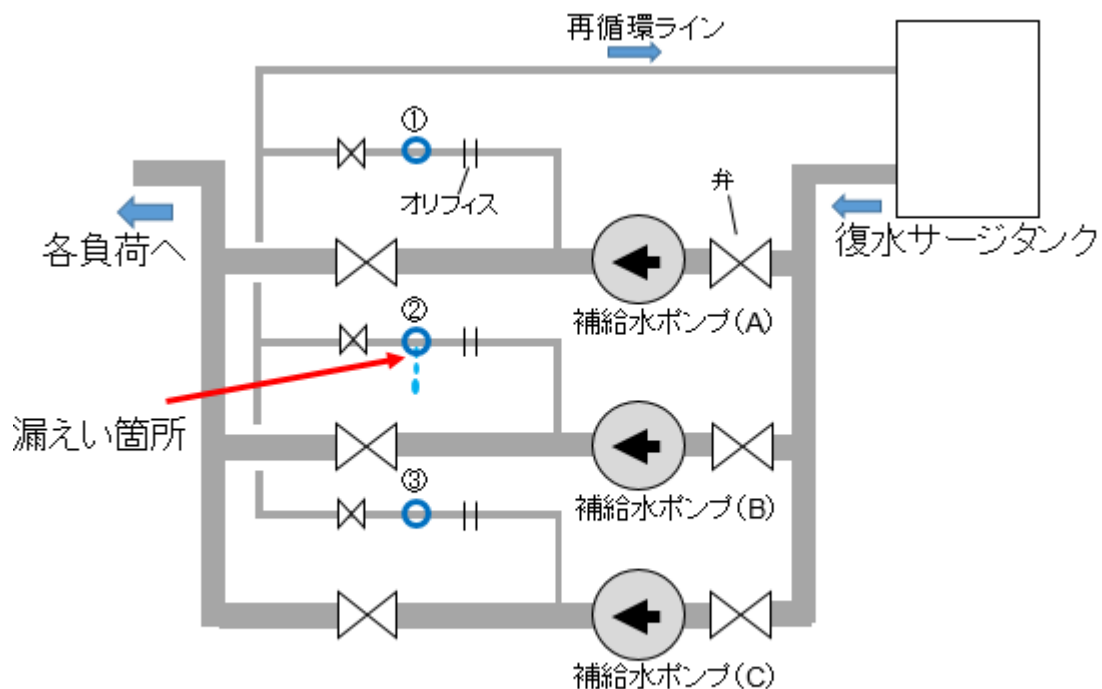
【今回お知らせする内容】

調査結果と 今後の対応

補給水ポンプ(B)の出口側配管に微小な孔から水が漏えいしたことから、原因調査の一環として、当該箇所(オリフィス(注1)の下流)の配管厚さを測定(孔部を除く)するとともに、補給水ポンプ(A)(C)についても当該箇所と同じ部位について厚さ測定(注2)をおこないました。

この結果、すべての測定箇所について、配管の厚さが技術基準(注3)で必要とされる厚さを下回っていることを確認しました。このため、現在、補給水ポンプ(A)(B)(C)は停止しております。

今後、この調査結果も踏まえ、引き続き原因を調査し、必要な対策を講じるとともに4号機および5号機も含めて再発防止対策を実施してまいります。



○ :配管厚さの測定の結果、技術基準で必要とされる厚さを下回っていた箇所

No.(注4)	配管仕様 (材質、口径、厚さ)	技術基準で 必要とされる厚さ	配管厚さの 測定結果(最薄部)
①	炭素鋼、40A、5.1mm	2.2mm	1.0mm
②			0.8mm
③			1.4mm

注1 オリフィスとは、流量調整のために配管に設置されるもので、金属板に孔を設けた構造の物です。

注2 配管の厚さ測定は、代表部位に対して実施した。

注3 技術基準とは、「実用発電用原子炉及びその附属施設の技術基準に関する規則」に定められる基準をいう。

注4 表左側のNo.は、概要図中の番号と一致する。

【これまでにお知らせした内容】

2019年2月7日お知らせ

(2019年2月7日お知らせ済み)

発生場所	3号機（施設定期検査中） 原子炉建屋 地下1階(放射線管理区域内)
発生年月日	2019年2月7日(注5)
状況	<p>2019年2月6日23時45分頃、巡視点検中の当社社員が、3号機 原子炉建屋 地下1階(放射線管理区域内)で、運転中の補給水(注6)ポンプ廻りに約2リットルの水溜りを確認しました。</p> <p>調査の結果、2月7日午前1時頃、補給水ポンプの出口側の配管に微小な孔が開いたことにより、当該箇所から漏えいしていることを確認しました。当該ポンプの停止および漏えい箇所の前後の弁を閉止したことにより、漏えいは停止しました。漏えいした水の放射能を測定した結果、検出限界値未満であることを確認しました。</p> <p>なお、漏えいした水の拭き取りは完了しています。 今後、微小な孔の開いた原因を調査し、適切に対応してまいります。</p>
放射能の影響	本事象による外部への放射能の影響はありません。
お知らせ基準	運転情報「表 1-2 管理区域内において、放射性物質を含む機器等からの水の漏えいを発見したとき。(但し、1リットル程度に至らない微小な漏えいを除く。)」に該当します。

注5 漏えい発生は2月6日ですが、お知らせ基準に該当すると判断した日付を記載しています。

注6 補給水とは、液体廃棄物処理系で処理した水であり、発電所の運転に再利用しています。

以上